

### 3月定例山行

3月16日(日) 恐羅漢山

参加者 14名

CL 利田昭雄 SL 宮木一民

川村、村島、國本、熊谷、  
鬼武、村田、三村、坂井、  
安永、佐々木、原田

[会友] 宮木



#### コースタイム

県庁北口7:30⇒スキー場リフト前10:00→12:20恐羅漢山山頂13:30→

牛小屋高原キャンプ場15:00 ⇒17:10県庁北口

#### ○

恐羅漢の山頂でわかんて雪の感触を楽しむというのが初期の目的であったが、民営のリフトしか使えなくて、2時間近くわかんてはいて急登をよじることをよぎなくされ、山頂付近でわかんて楽しむどころではなかった。

それに、山頂付近は小雨交じりの猛烈な風で、シートを張っても落ち着いて食事ができないような状態であった。そういう中であって、村田さんが用意してくれた甘酒がとってもおいしかった。なにはともあれ、事故もなくみんな元気だったのが何よりであった。

(記 利田昭雄)

#### ○

雪山山行と言っても、恐羅漢の雪を知らない私は、どれほどの雪が残っているだろうか、心配でした。スゴイですね、雪の量。

スキー場には、若者の天国。スキーヤーあり、スノーボーダーあり。一番上の、上級コース？サーッ、とすべり降り、目の前で、

シャッ！と見事なエッジ？さばきで止まる、若者。何であんな所でとまれるの。とビックリしながら、山際を、初めて履いたワカンを、まるでドナルドダックの如く。かっこ悪いおばさんが 珍しくて止まったのでしょうか。

雪は硬く、滑りやすくなっていました。スキー場を抜ける頃霧が、さーっと退いて視界が時々開けた。頂上に近づくにつれ、雨に風も加わって、是ほど濡れた登山は始めて。手袋もカップを伝わってくる雨でぐしょぐしょ。体も濡れているわけでも無いだろうが。芯から冷えた。

頂上でご馳走になった甘酒がおいしかった。冷えていた体が、凍えていた指先が温まった。

“雪山といっても“とたかをくくっていた私。準備不足をおもいした。近くの雪山で大きな経験を持って帰りました。

アア一面白かった。来年は頑張ってワカンを使うぞー。

(記 安永秀子)